



公益財団法人

日本学術協力財団

Newsletter of Japan Science Support Foundation

ISSUE 41, April 2023

Newsletter

令和5年度事業計画・収支予算

財団は、以下のとおり令和5年度事業計画及び予算を決定しました。

令和5年度事業計画

1 経常的な法人運営

① 学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発

i 『学術の動向』の発行

総合学術情報誌『学術の動向』を発行し、日本学術会議関係者、財団賛助会員、大学、図書館、研究機関等に配布する。

『学術の動向』の発行形態を今年度（令和5年度）より月刊から季刊に変更する。

『学術の動向』に掲載されている論文等については、国立研究開発法人科学技術振興機構のアーカイブ事業（J-STAGE）を通じて広く一般に公開する。

ii 『学術会議叢書』等の発行

学術及び学術研究の成果を社会一般に普及するため、日本学術会議が行った公開講演会や各種シンポジウム等の記録に加えて、当該学術テーマに関する最新の科学者の論考を盛り込んだ『学術会議叢書』等が発行する。

本年度の同叢書のテーマは「女性の政治参画をどう進めるか（仮題）」として、本年度も、公益財団法人一ツ橋総合財団の助成により刊行し、全国、約1,500か所の国公立図書館・大学付属図書館等に寄贈する。

② 学術連携推進事業

i 科学者連携事業

日本学術会議主催の講演会、シンポジウム等の事業に対する支援を行う。

ii 学協会に関する実態調査及び調査結果の情報発信

「データベース『学会名鑑』」については、日本学術会議及び国立研究開発法人科学技術振興機構と連携して運用し、毎年度、日本学術会議が行う協力学術研究団体の実態調査を基に、データの整備・公表を行ってきた。

this issue

令和5年度事業計画・収支予算
学術会議叢書30について
出版物のご案内
データベース学会名鑑について
公開講演会開催に対する支援

公益財団法人日本学術協力財団は、賛助会員と助成金・寄付金を拠出いただいた方々のご厚意により、運営されています。

— 編集・発行 —

公益財団法人

日本学術協力財団

〒107-0052

東京都港区赤坂4-9-3

TEL 03-3403-9788

FAX 03-5410-1822

URL <http://jssf86.org/>

2023年4月1日発行

令和4年度からは、「データベース『学会名鑑』」システムの開発・運用が、従来担当していた国立研究開発法人科学技術振興機構から日本学術会議に移管され、現在、日本学術会議において同システムの改修工事中である。今後、科学技術振興機構からは、必要に応じて、専門的知見に基づく助言を求める。

日本学術会議においては令和5年度の新システム運用開始に向けて準備を進めており、当財団においても新システム運用の充実に向けて連携していく。

同時に、日本学術会議が毎年度行う協力学術研究団体の実態調査についても、令和5年度からは同調査の実施面を当財団が同会議より受託し、関係データの整備、充実に努める。

上記の取り組みにより、「データベース『学会名鑑』」が我が国学協会の実態を示す基本的データベースとして一層利活用されるように努める。

[略]

③ 学協会運営支援

日本学術会議同友会、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー等からの要請を受けて、運営事務の支援を行う。

2 事業運営及び法人財政の改革

① 事業運営の改革—「学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発」（公益目的事業1）の改革

——科学及び学術に関する議論と社会発信の一層の強化

i 『学術の動向——科学と社会をつなぐ』の改革推進

本年度（令和5年度）からの同誌季刊化を契機として、掲載論考の査読等を充実させることにより学術誌としての価値を一層高める。同時に、「科学と社会をつなぐ」という同誌刊行の基本理念の下、特定の狭い専門分野に偏ることなく、分野横断的な内容を平易に表現すると同誌編集方針を継承、強化して科学者コミュニティの総合的、俯瞰的助言活動に資するよう努める。

ii 「科学と社会研究会」による議論の推進

「科学と社会研究会」（以下、「研究会」）において、科学と社会、科学技術の研究及びその成果の社会への適用に関する議論を引き続き行う。

特に、「第三カテゴリー研究」（注）に関しては、第三カテゴリー研究の「種」を発掘する調査研究を引き続き推進する。

（注）第三カテゴリー研究：既存の研究助成制度によっては支援されないが社会的に解決すべき研究課題

研究会による議論の成果は、『学術の動向——科学と社会をつなぐ』に随時掲載し、同誌による「科学と社会」に関する発信を強化する。

iii 異分野交流研究活動の着手と推進

劣悪な研究環境等若手科学者が置かれる閉塞状況からの脱却・転換に向けた取り組みとして、原田弘二基金による若手科学者の分野横断交流研究活動（シンポジウム、ワークショップ等）を推進する。

「異分野交流研究活動」の成果は、『学術の動向——科学と社会をつなぐ』に随時掲載し、同誌による「科学と社会」に関する発信を強化する。

② 財団財政の改革

当財団の直面する財政危機は、年度を追う毎に深刻になっている。

このような財政危機からの脱却、転換を目指して、この間、日本学術会議をはじめとする関係方面に対して賛助会員加入拡大による協力を要請してきたが、顕著な成果は得られていない。

令和5年度において当財団財政の抜本的な改善が実現できない場合には法人としての存立自体が危殆に瀕するとの状況認識に立ち、日本学術会議と緊密に連携・協力しながら、当財団財政基盤の強化に集中的に取り組む。



※お申込みは FAX にて
03-5410-1822

A5 判、203 頁
本体 1,800 円 + 税 (送料別)
賛助会員は割引価格
1,782 円 (送料込)

学術会議叢書 30

『「人間の尊厳」とは——コロナ危機を経て』の出版について

財団では、毎年、学術図書として『学術会議叢書』を発刊しています。令和4年度は、『「人間の尊厳」とは——コロナ危機を経て』と題する叢書を発行いたしました。

世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、経済のみならず、社会規範や私たちの価値観に大きな変容をもたらしました。多くの感染者で混乱する医療現場では、患者一人ひとりの人としての尊厳を守るのが難しい状況になりました。さらに、死者についても、人間らしい死とその弔いが守れない事例が生じています。

今では、with/after コロナの世界を見据えた動きが出ています。このコロナ危機を経て、私たちの「人間としての尊厳」はどのように変容した (する) のか、with/after コロナの世界では、それらは守られるものなのか、「人間の尊厳」について、哲学、法学、医療・医学、宗教学など、様々な立場からの専門知を集結して、一冊の図書として纏めました。この叢書につきましては、例年と同じく、公益財団法人一ツ橋総合財団から助成をいただき、全国約 1,500 か所の国公立図書館、大学付属図書館等に寄贈いたしました。

【目次】

発刊に寄せて / 梶田隆章

はじめに / 香川知晶

第1章 コロナ・パンデミックと人間の尊厳 / 加藤泰史

第2章 終末期 (人生の最終段階) における治療の選択と「尊厳ある人生の終わりを迎える権利」とは——フランスにおける Covid-19 禍のもたらした「死と尊厳」の再検討の動きから / 建石真公子

第3章 危機に瀕する人間の尊厳——臨床の現場から / 齊尾武郎

第4章 コロナ禍で障害のある人と家族が体験していること / 児玉真美

第5章 人工呼吸器のモテ期と人間の尊厳——閉じ込め症候群の人びとは何を感じたか / 美馬達哉 他

第6章 倫理学の立場から / 香川知晶

第7章 人間の尊厳とトリアージ——キリスト教思想からの応答 / 土井健司

あとがき / 土井健司

2023 年度収支予算

(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

(単位: 千円)

科 目	予算額	科 目	予算額
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部		2 経常外増減の部	
(1) 経常収益		(1) 経常外収益計	0
基本財産運用益	326	(2) 経常外費用計	0
受取会費	29,546	当期経常外増減額	0
事業収益	7,578	一般正味財産期末残高	8,111
受取補助金等	1,500		
受取寄付金	0	II 当期指定正味財産増減額	
雑収益	618	指定正味財産期末残高	139,084
経常収益計	39,568		
(2) 経常費用		III 正味財産期末残高	147,195
事業費	26,325		
管理費	13,243		
経常費用計	39,568		
当期経常増減額	0		

『学術の動向』季刊化について

『学術の動向』の内容刷新と質の向上を図り、より魅力的な雑誌とするために、令和5年度から大幅な見直しを行うことといたしました。

具体的には、まず、発行頻度を現在の毎月一回から四半期に一回に変更（季刊化）し、編集委員会において十分に議論したテーマに沿って、充実した内容となるよう編集します。その際に、査読も従来より更に行うことにより、掲載論文の質の確保を図り、学術誌としての価値を高めていきたいと考えます。

『学術の動向』は、従来から「科学と社会をつなぐ」という基本的考えのもと、特定の狭い専門分野に偏ることなく、分野横断的な内容を平易に表現するよう努めてきたところですが、この編集方針は変えることなくより一層強化して科学者コミュニティの総合的、俯瞰的助言活動に資することとしたいと思います。

また、季刊化にあたり、判型をA4判からB5判に改めることとしました。

以上のような『学術の動向』改革は、科学者コミュニティ及び社会における一層の普及を目指すものであり、科学者コミュニティの代表機関である日本学術会議会員・連携会員はもとより、科学者、市民のみならずのこれまでも増しての活用を期待いたします。

日本学術会議地区会議の 公開講演会開催に対する支援

財団は、日本学術会議の各地区会議が開催する下記の学術講演会について、開催に係る支援を行いました。

◎日本学術会議 in つくば

「持続的かつレジリエントな道筋への移行」

日時：令和5年2月15日（水）

場所：防災科学技術研究所 研究交流棟
和達記念ホール

◎九州・沖縄地区会議学術講演会

「潜在的なエネルギー・資源（Future Resource）
に着目した学術研究」

日時：令和5年3月14日（火）

場所：佐賀大学理工学部6号館1階講義室



出版物のご案内

※お申込みは FAX にて 03-5410-1822

品切れを除く近刊の書籍については Amazon からもお買い求めいただけます。

学術の動向

A4判・720円＋税（2023年3月号までの金額・メール送料込）

賛助会員は毎号1冊無料配布

- 1月号 特集：カーボンニュートラル実現に向けた学術の挑戦
特集：パワーレーザーと高エネルギー密度科学技術の進展と新産業創成
- 2月号 特集：女性の政治参画を進める
特集：感染症をめぐる国際政治のジレンマ
—科学的アジェンダと政治的アジェンダの交錯
- 3月号 特集：東日本大震災の復興をめぐる社会的モニタリングの方法と課題
特集：事故による子どもの傷害を減らすために



公益財団法人日本学術協力財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-3

TEL 03-3403-9788

03-5410-0242

FAX 03-5410-1822

URL <http://jsssf86.org/>